

月刊誌『社会科教育』（明治図書）2016年4月号～2017年3月号 連載1～12回

未来社会につなぐ！

## 現代社会の課題と社会科授業デザイン

静岡大学（名誉教授）

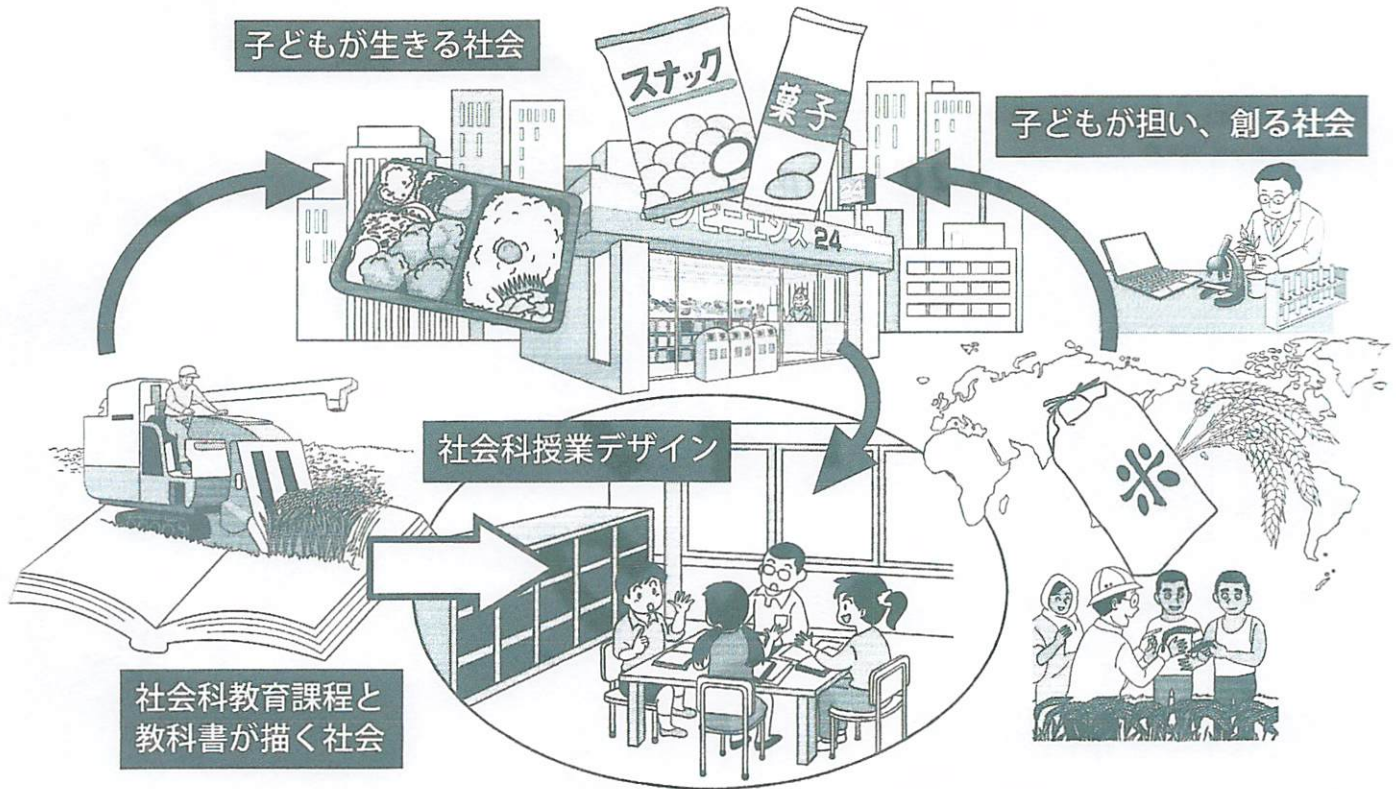
UER-Labo Director 馬居政幸

### イラスト編

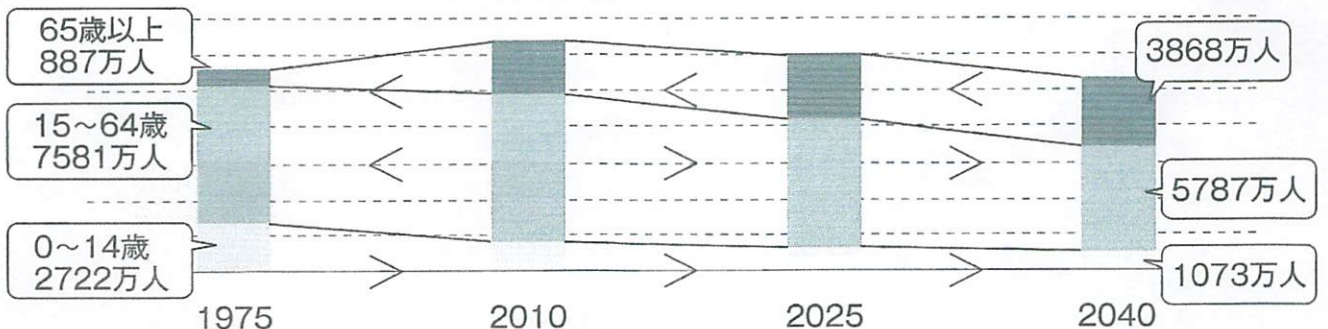
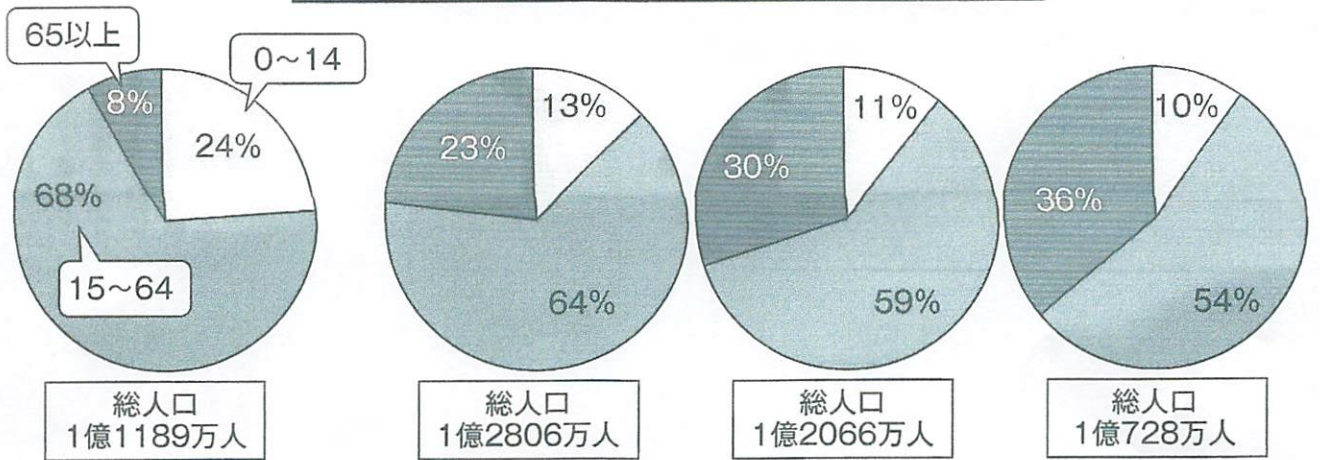
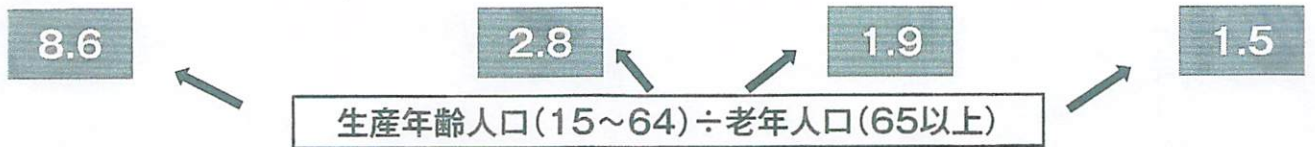
- 4月号 1 社会科の社会で生活するのは誰？
- 5月号 2 食と米を未来社会創造の中核学習教材に
- 6月号 3 リアルな地域が要請する「資質・能力」とは
- 7月号 4 「生きる力」は「生きられた社会」が培う  
「資質・能力」を省みることから（1）
- 8月号 5 「生きる力」は「生きられた社会」が培う  
「資質・能力」を省みることから（2）
- 9月号 6 「深い学び」と「学びに向かう力・人間性等」が拓く社会は？
- 10月号 7 「社会的見方・考え方」が解決に挑む社会の課題は？
- 11月号 8 新指導要領のエッセンスは「社会的見方・考え方」に
- 12月号 9 「社会的見方・考え方」の具体化への視点と方法は！
- 1月号 10 「資質・能力」と「社会的見方・考え方」を結ぶ課題は？
- 2月号 11 「予測困難な時代」に向かう「社会的な見方・考え方」は？
- 3月号 12 社会科・新学習指導要領が志向する  
資質・能力のモデルは『ONE PIECE』に

# 国家・社会の形成者としての公民的資質の基礎を養う

＜イラスト：長野 孝＞



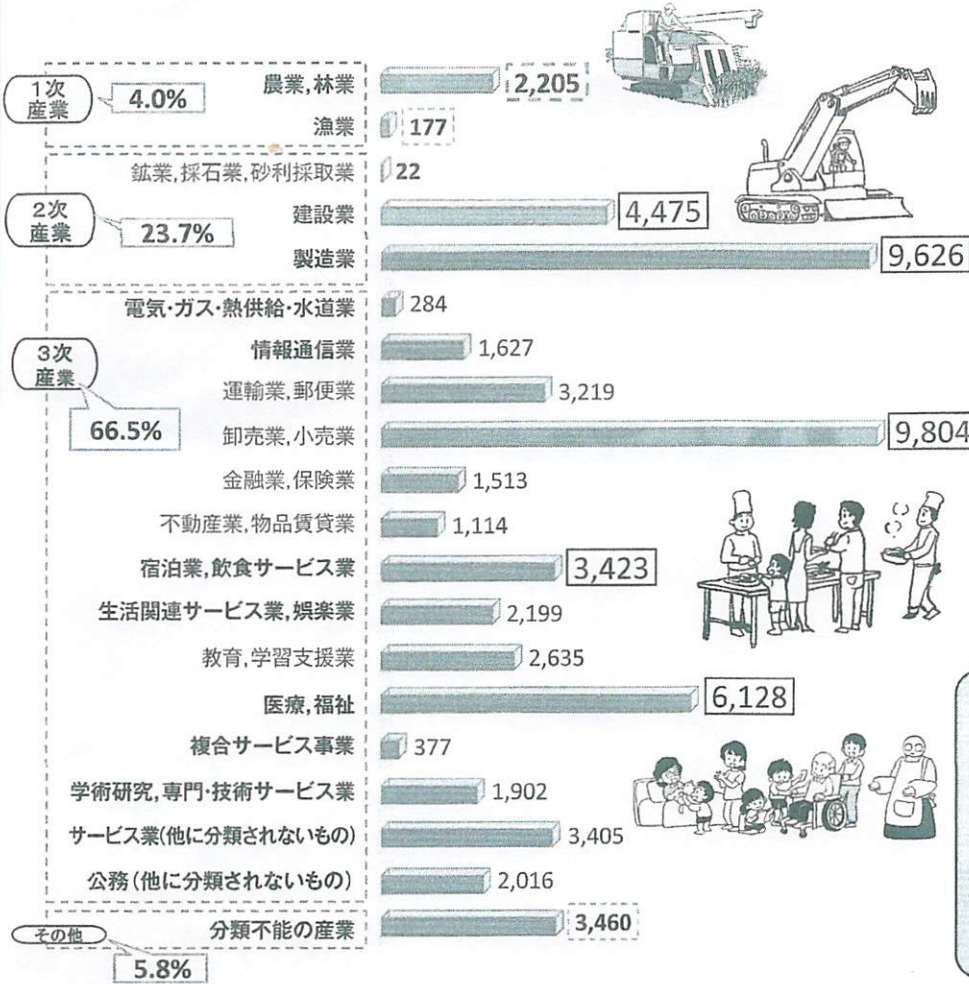
1975 → 35年 → 2010 → 15年 → 2025 → 15年 → 2040





# 産業別(大分類)就業人口数(2010年国勢調査)

<イラスト:長野 亨>



多様 多元 可変

ICT・AI  
サービス・観光  
(販売・福祉・飲食)  
製造・技術・建築  
農林水産  
食の6次産業化

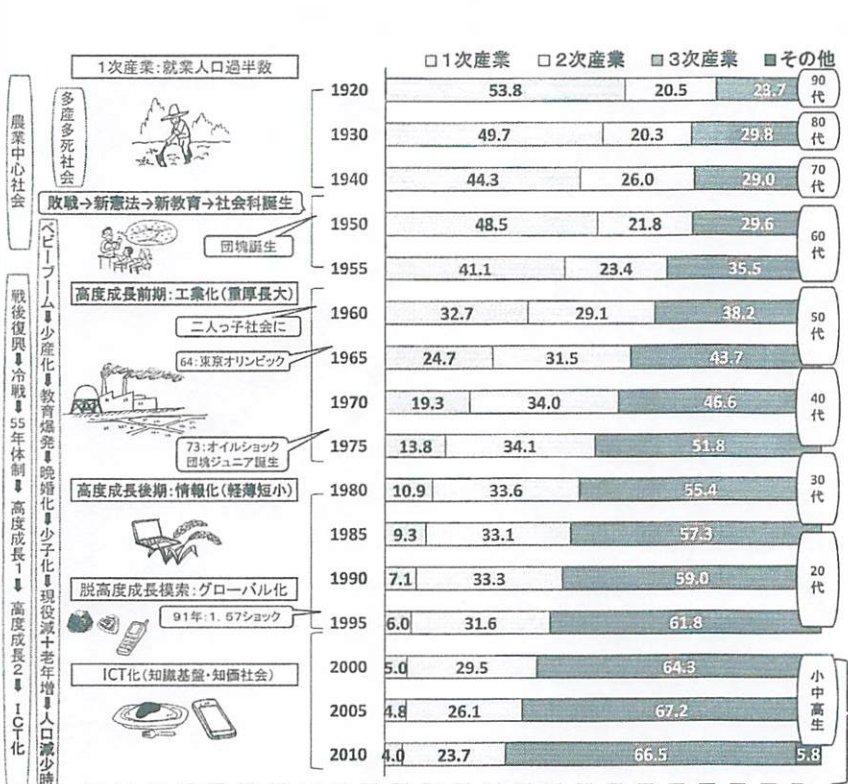
メタ認知  
非認知能力

自己表現, 臨機応変, 個性顕現, 選択力, 開放性, 外向性, 勤勉性, 協調性~  
協働実現力

家事・育児・介護

アクティブ・ラーニング カリキュラムマネジメント

## 産業別就業人口割合(1920~2010年国勢調査)



サービス業の拡大・分化 (販売・福祉・飲食・教育)

年	1次産業	2次産業	3次産業
2000年	農業, 林業, 漁業	鉱業, 建設業, 製造業	電気・ガス・熱供給・水道業, 運輸・通信業, 卸売・小売業, 飲食店, 金融・保険業, 不動産業, サービス業, 公務(他分類不可), 分類不能の産業
2005年	農業, 林業, 漁業	鉱業, 建設業, 製造業	電気・ガス・熱供給・水道業, 情報通信業, 運輸業, 卸売・小売業, 金融・保険業, 不動産業, サービス業(他分類不可), 飲食店, 宿泊業, 複合サービス事業, 公務(他分類不可), 分類不能の産業
2010年	農業, 林業, 漁業	鉱業, 採石業, 砂利採取業, 建設業, 製造業	電気・ガス・熱供給・水道業, 情報通信業, 運輸業, ★郵便業, 卸売業, 小売業, 金融業, 保険業, 不動産業, ★物品賃貸業, 宿泊業, 飲食サービス業, ★生活関連サービス業, 娯楽業, ★教育, 学習支援業, 医療, 福祉, 複合サービス事業, ★学術研究, 専門・技術サービス業, サービス業(他分類不可), 公務(他に分類されるものを除く), 分類不能の産業

「人口減少時代(地域間と世代間と世代内の差異縮小へのシステム転換)」



図1 居住期間(6区分), 年齢(5歳階級) 別人口・割合—全国(国勢調査2010年)

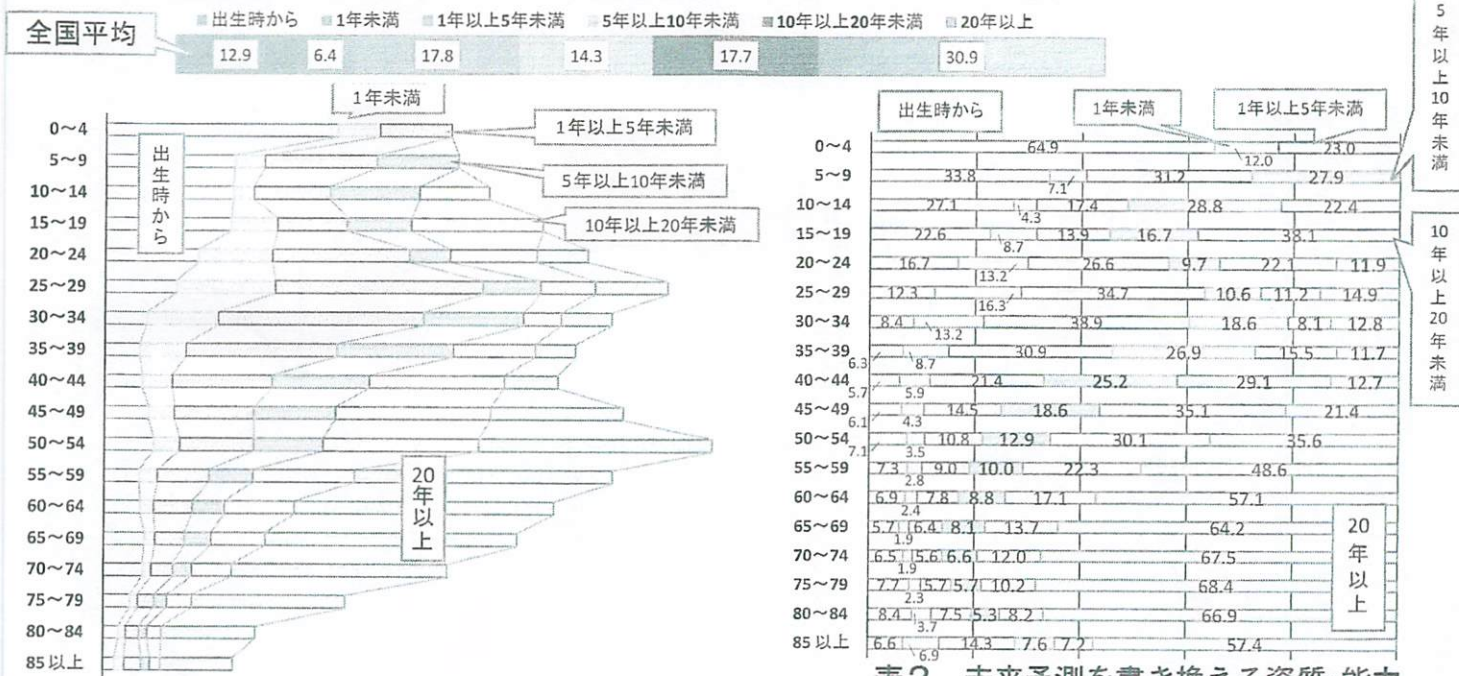
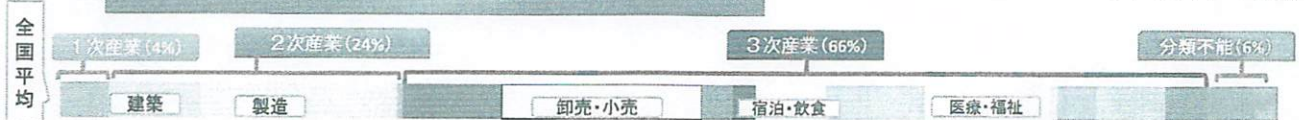
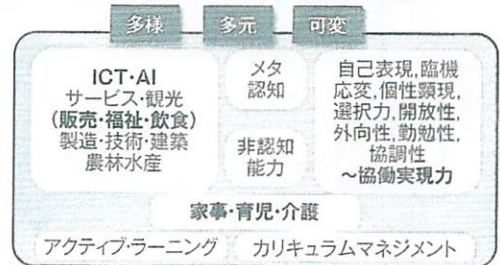


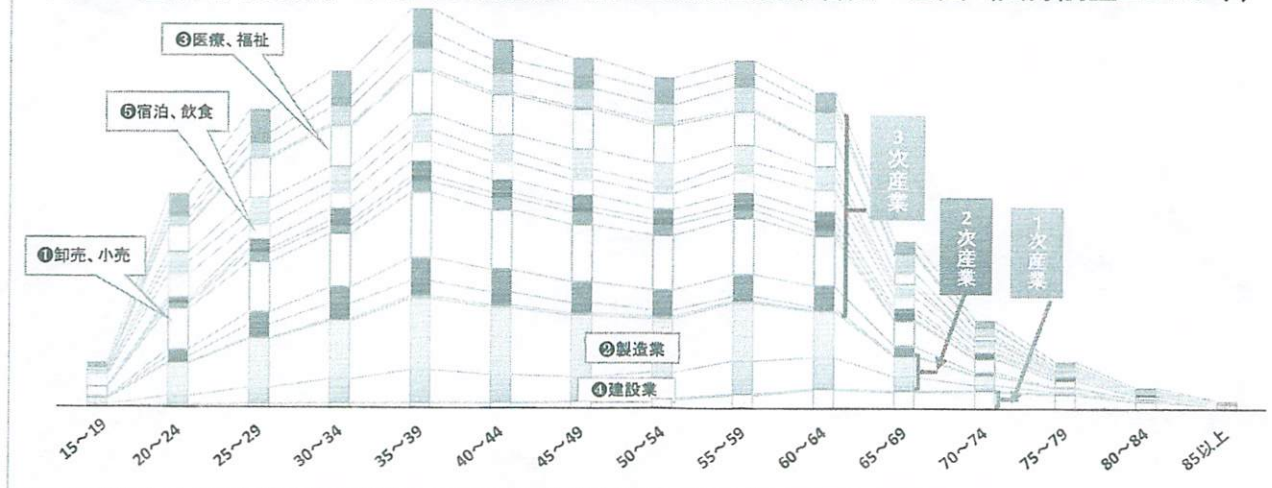
表1 産業別人間関係(地域)の特性

産業分類	関係の契機	人間・集団との関係の特性
1次産業中心社会	地縁・血縁	同質・身分・伝統を前提とした公私未分化の非選択的な人間関係
2次産業中心社会	社縁・学校縁	同質・平等・競争・利害を前提とした集団への実質的に非選択的な帰属関係
3次産業中心社会	情報・知縁	選択の契機を介在させた部分の人間関係(横並び階層化 or 棲分 or 共生関係)



- ①農・林 ②漁 ③鉱 ④採石・砂利採取 ⑤建設 ⑥製造 ⑦電気・ガス・熱供給・水道 ⑧情報通信 ⑨運輸・郵便 ⑩卸売・小売 ⑪金融・保険 ⑫不動産・物品賃貸 ⑬学術研究・専門・技術サービス ⑭宿泊業、飲食サービス ⑮生活関連サービス・娯楽 ⑯教育・学習支援 ⑰医療・福祉 ⑱複合サービス事業 ⑲サービス業(他に分類されないもの) ⑳公務(他に分類されるものを除く) ㉑分類不能産業

図2 産業(大分類), 年齢(5歳階級) 別15歳以上就業者数—全国(国勢調査2010年)



※全て2010年国勢調査から作成。2015年国勢調査結果開示後に再度報告する。



図1 児童の有無（18歳以下）別世帯数の構成割合の推移

年	(2014年国民生活基礎調査より)			
	1人	2人	3人以上	児童のいない世帯
1975	20.0	24.6	8.4	47.0
1986	16.3	22.3	7.7	53.8
1989	15.5	19.3	6.8	58.3
1992	14.0	16.3	6.2	63.6
1995	13.5	14.4	5.5	66.7
1998	12.6	12.8	4.9	69.8
2001	12.2	12.2	4.3	71.3
2004	11.9	12.2	3.8	72.1
2007	11.5	11.0	3.5	74.0
2010	11.3	10.7	3.3	74.7
2013	10.9	10.1	3.2	75.9
2014	10.4	9.2	3.0	77.4

◇未来予測を書き換える資質・能力育成のためのモデル図（私案）

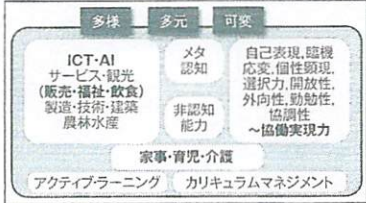


図2 家族類型別一般世帯数及び割合

年	国勢調査結果				
	単独	夫婦のみ	夫婦と子	ひとり親と子	その他
1975	19.5	11.6	42.5	5.4	21.0
1980	19.8	12.5	42.1	5.7	19.9
1985	20.8	13.7	40.0	6.3	19.2
1990	23.1	15.5	37.3	6.8	17.4
1995	25.6	17.4	34.2	7.1	15.7
2000	27.6	18.9	31.9	7.6	14.0
2005	29.5	19.6	29.9	8.4	12.7
2010	32.4	19.8	27.9	8.7	11.1
2015	33.3	20.5	27.0	9.4	9.7
2020	34.4	20.8	26.0	10.1	8.7
2025	35.6	20.9	25.0	10.6	7.9
2030	36.5	21.0	24.1	11.0	7.3
2035	37.2	21.2	23.3	11.4	6.9

国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)」(2013年1月推計)

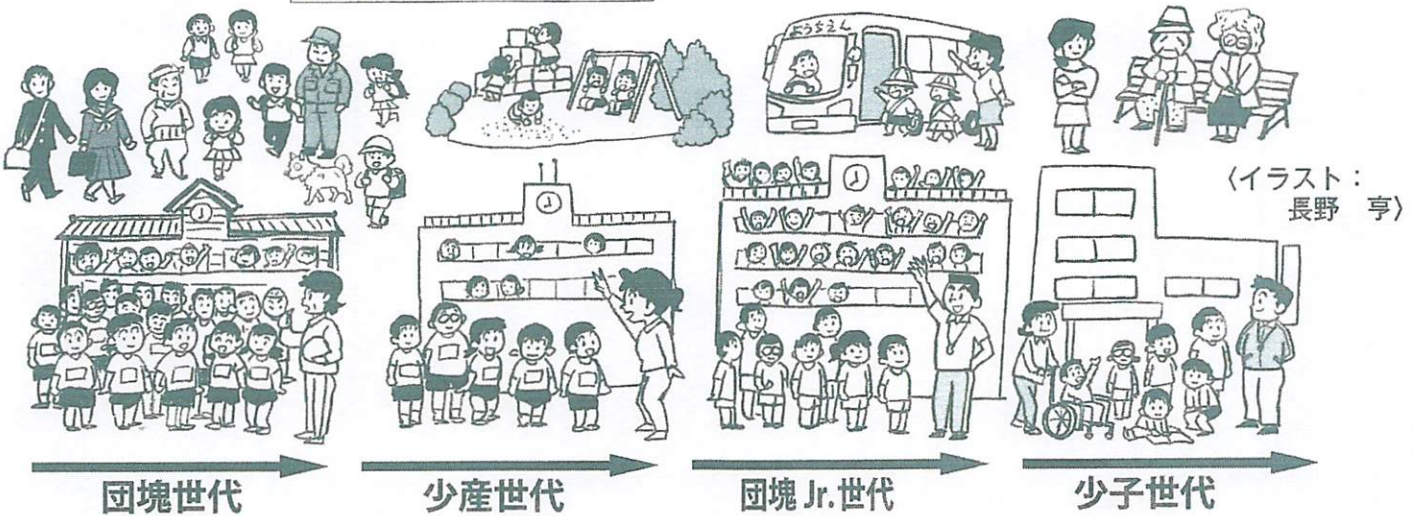
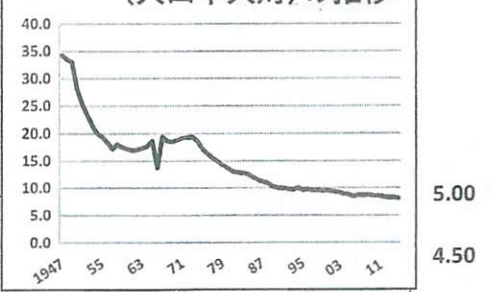


表1 出生数及び普通出生率と合計特殊出生率の推移

	出生数最大 団塊の世代	子ども 二人に	オイルショック 団塊ジュニアピーク	1.57 ショック	出生率 最低に	出生数100万人 以下に?
	1949	1960	1973	1989	2003	2014
A: 合計特殊出生率	4.32	2.00	2.14	1.57	1.29	1.42
B: 普通出生率(人口千人対)	33.0	17.2	19.4	10.2	8.9	8.0
C: 出生数	270万	160万	209万	125万	112万	103万

図4 普通出生率(人口千人対)の推移



(表1, 図3, 図4 人口動態調査より)

図3 出生数・合計特殊出生率の推移と家族・産業構造の特性

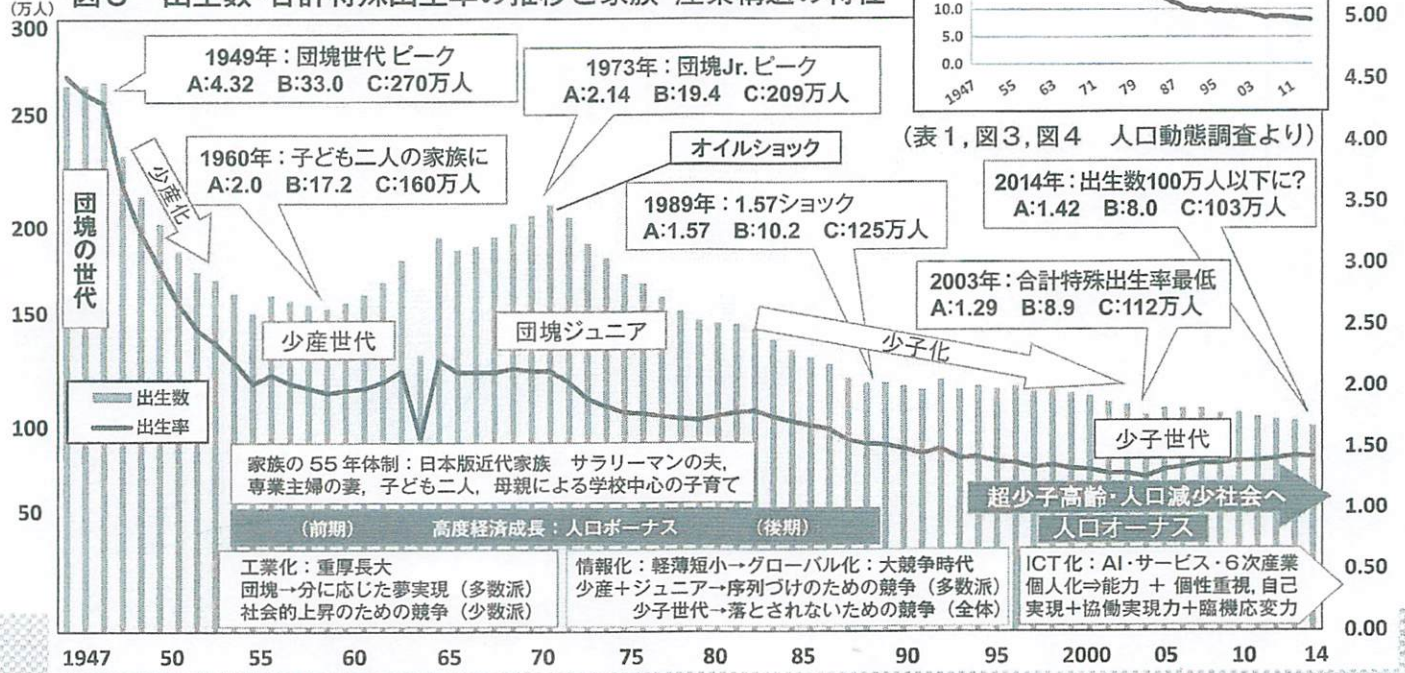




図1 女性の年齢(5歳階級)別出生数の割合:1950~2014年

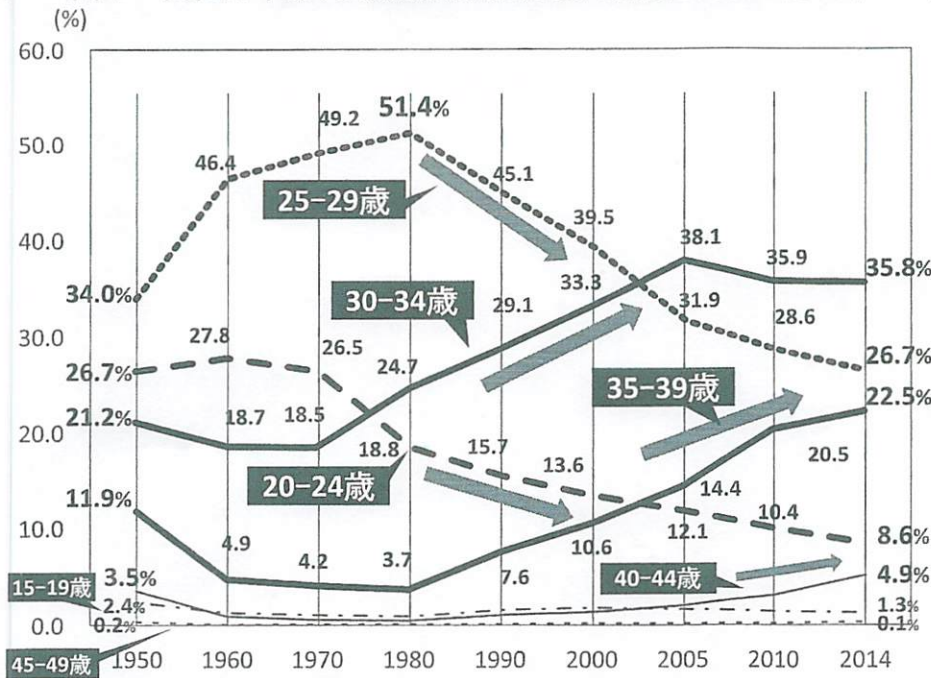


図2 女性の未-既婚別就業者人口 2010年

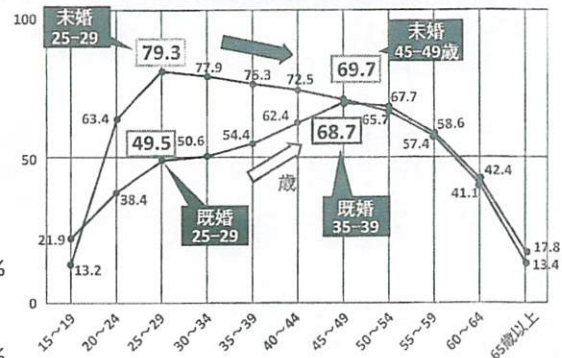


図3 共働き世帯の就業状況の推移

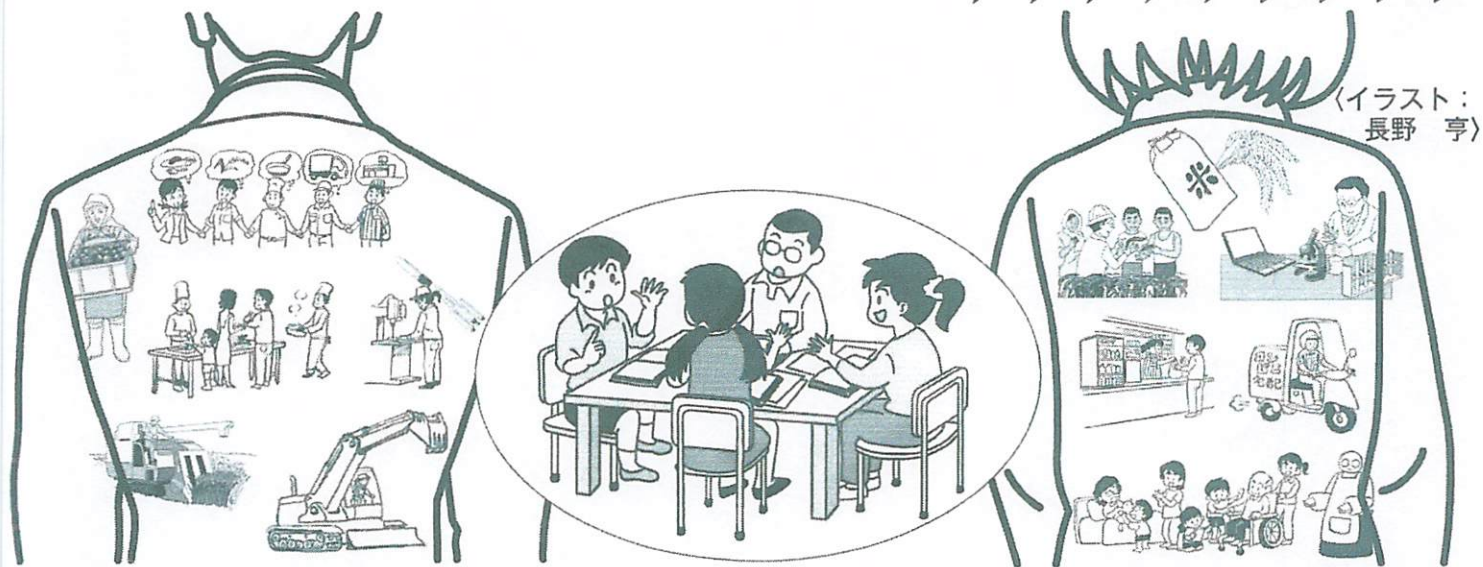
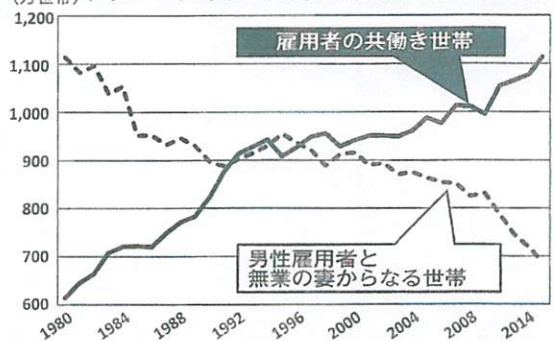


図4 男女5歳年齢別未婚率 2010年

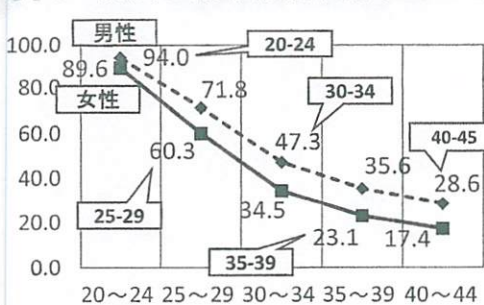
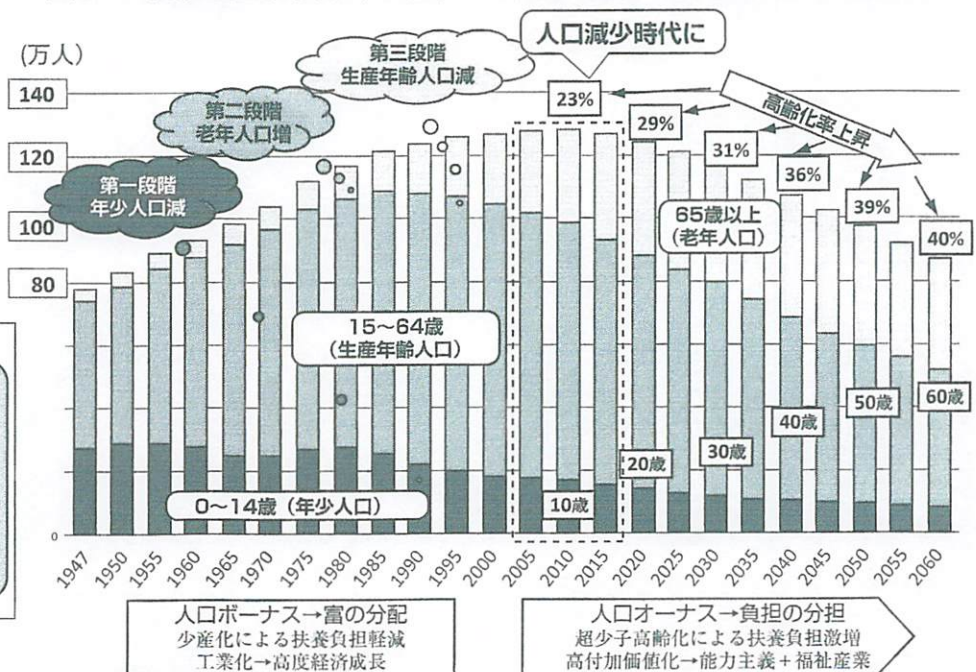


図5 年齢3区分(年少, 生産, 老年)別人口数の推移 1947~2060年



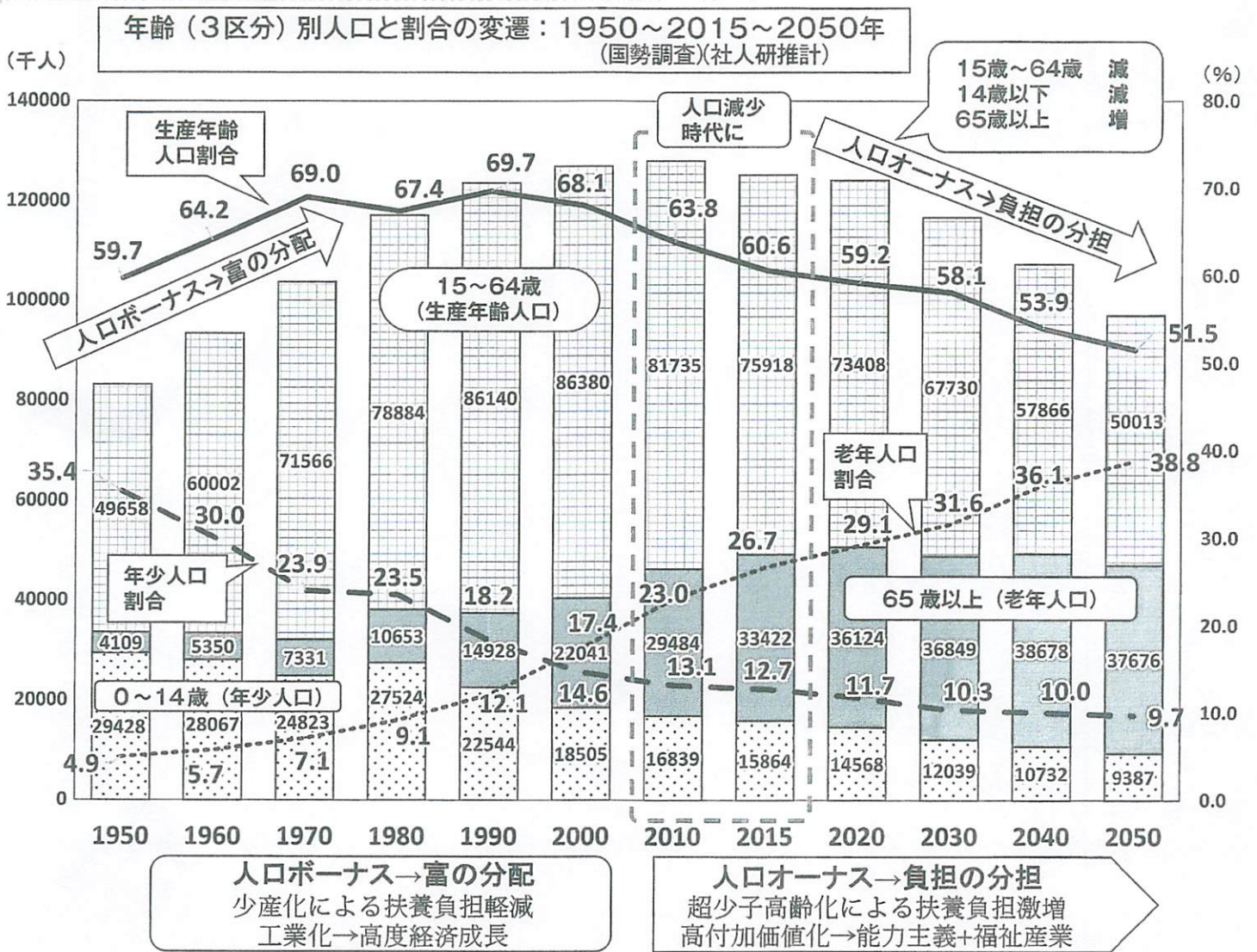
多様 多元 可変

- ICT-AI サービス・観光 (販売・福祉・飲食) 製造・技術・建築 農林水産
- メタ認知 自己表現, 臨機応変, 個性顕現, 選択力, 開放性, 外向性, 勤勉性, 協調性 ~協働実現力
- 非認知能力
- 家事・育児・介護
- アクティブラーニング カリキュラム・マネジメント

◇未来予測を書き換える資質・能力育成のためのモデル図 (私案)

(出典: 図1 厚生労働省「人口動態調査」, 図2, 4, 5 総務省「国勢調査」, 図3 総務省「労働力調査」)





### 人口オーナス時代の産業システムと資質・能力育成+社会科産業学習モデル図

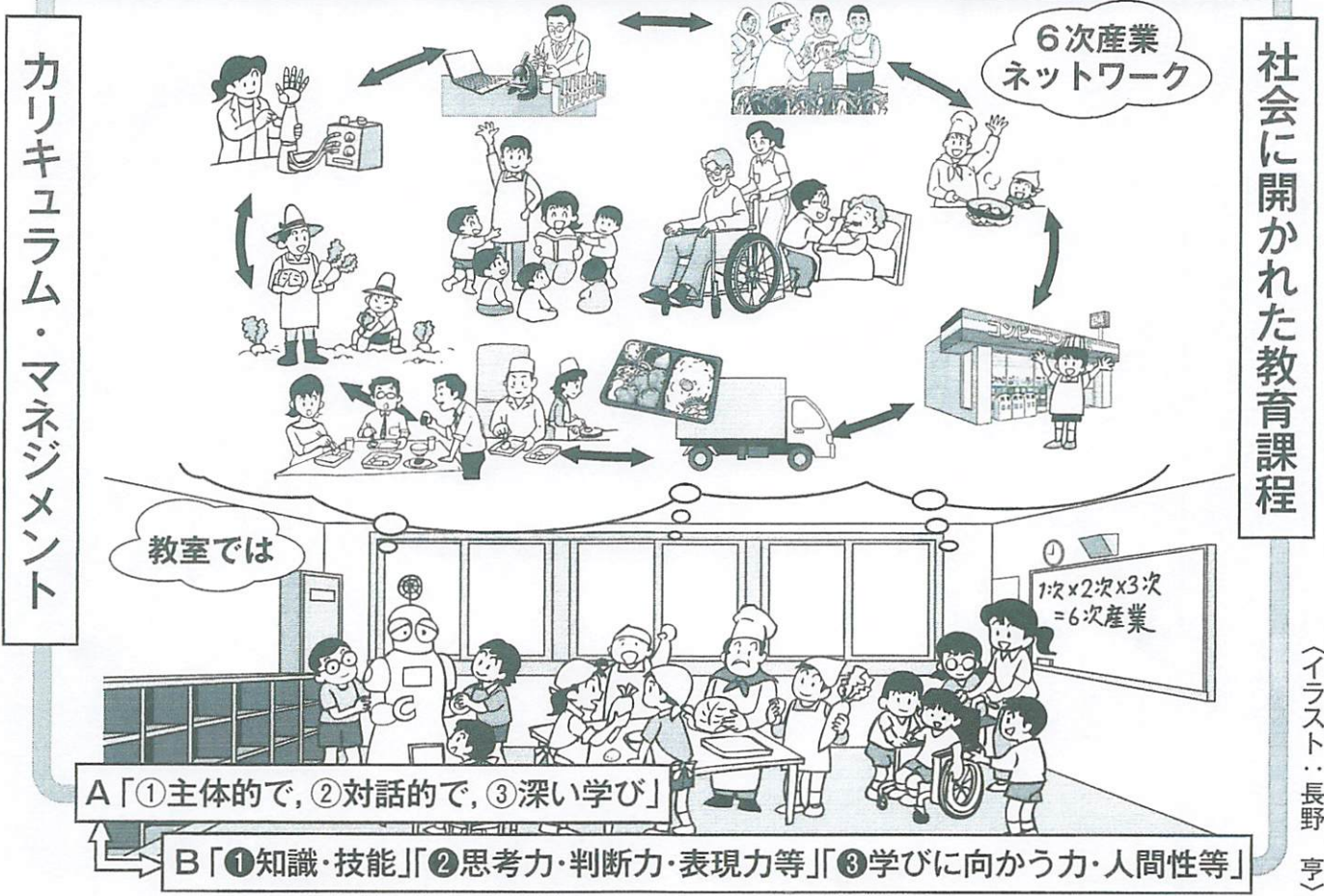




図1 都道府県別15~64歳と65歳以上の人口 2010年 2040年

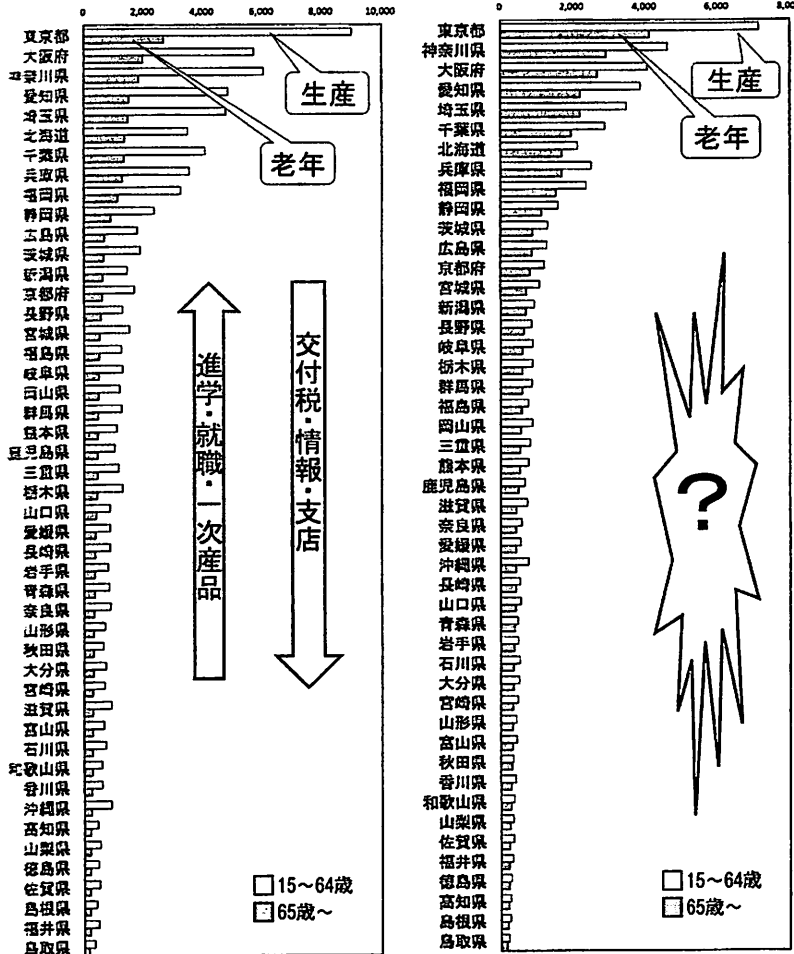


図2 A÷B (2010年, 2025年, 2040年) [支える側と支えられる側の比]

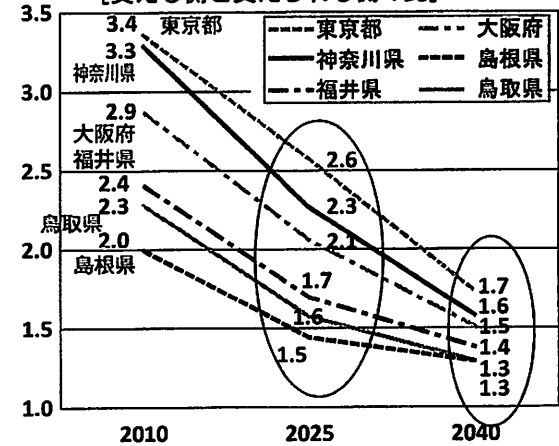


図3 C÷B (2010年, 2025年, 2040年) [老年人口における後期高齢者の割合]

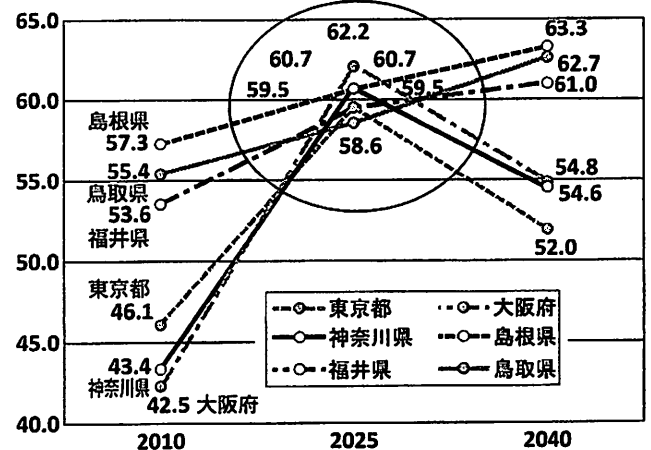
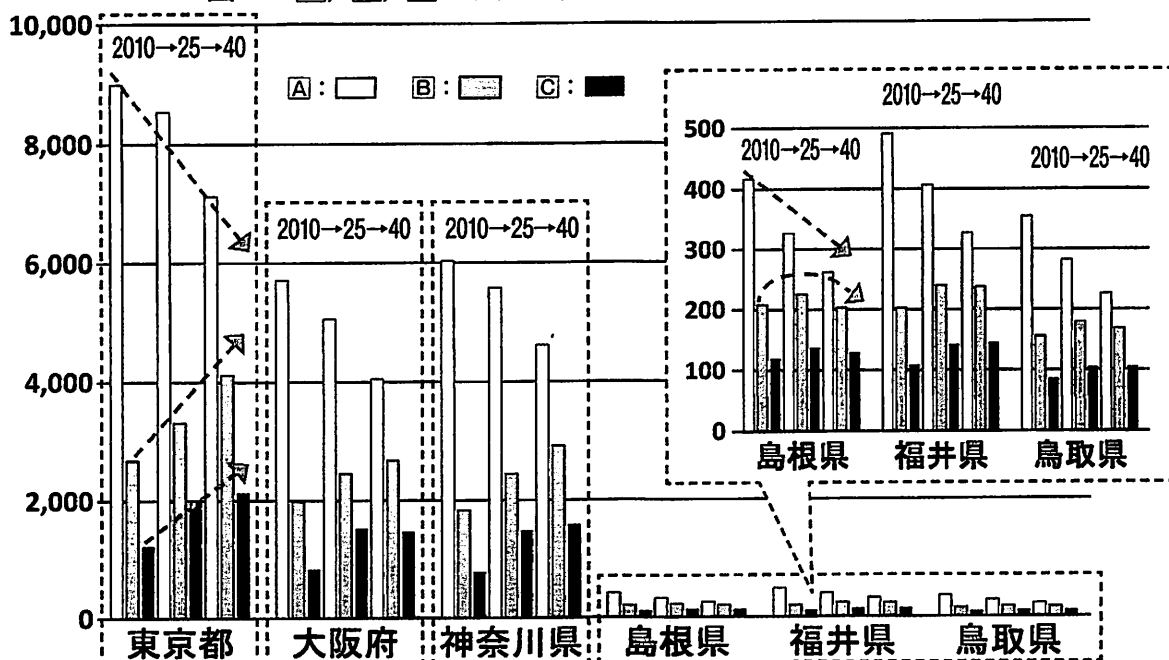


表 A: 生産年齢(15~64歳), B: 老年(65歳以上), C: 75歳以上の人口と A÷B, C÷B(2010年, 2025年, 2040年) 2010年国勢調査において、65歳以上の上位3都府県と下位3県 (単位: 千人)

	2010			2025			2040								
	A	B	C	A÷B	C÷B	A	B	C	A÷B	C÷B	A	B	C	A÷B	C÷B
東京都	8,994	2,679	1,234	3.4	46.1	8,544	3,322	1,977	2.6	59.5	7,129	4,118	2,139	1.7	52.0
大阪府	5,708	1,985	843	2.9	42.5	5,048	2,457	1,528	2.1	62.2	4,048	2,685	1,472	1.5	54.8
神奈川県	6,028	1,830	794	3.3	43.4	5,578	2,448	1,485	2.3	60.7	4,607	2,919	1,592	1.6	54.6
島根県	417	209	119	2.0	57.3	327	226	137	1.5	60.7	262	204	129	1.3	63.3
福井県	491	203	109	2.4	53.6	407	240	143	1.7	59.5	327	238	145	1.4	61.0
鳥取県	355	155	86	2.3	55.4	282	179	105	1.6	58.6	226	168	106	1.3	62.7

図4 A, B, Cの人口の変遷(2010年, 2025年, 2040年)



※グラフ中のA, B, Cは、それぞれA: 15~64歳の人口, B: 65歳以上の人口, C: 75歳以上の人口を示す。  
 ※図, 表は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」より作成。



表1 年齢5歳階級男女別総人口表(人)

	男性	女性
0~4	2620200	2500100
5~9	2666400	2555400
10~14	2821600	2700600
15~19	3011200	2881300
20~24	3164500	2990900
25~29	3291200	3140000
30~34	3655700	3558700
35~39	4161700	4071100
40~44	4877900	4782100
45~49	4326800	4287400
50~54	3940700	3941800
55~59	3696000	3760100
60~64	4104700	4274500
65~69	4614600	4968700
70~74	3558500	4113600
75~79	2774500	3496400
80~84	1983600	2966200
85以上	1474700	3470800

図1 年齢5歳階級男女別総人口比較図

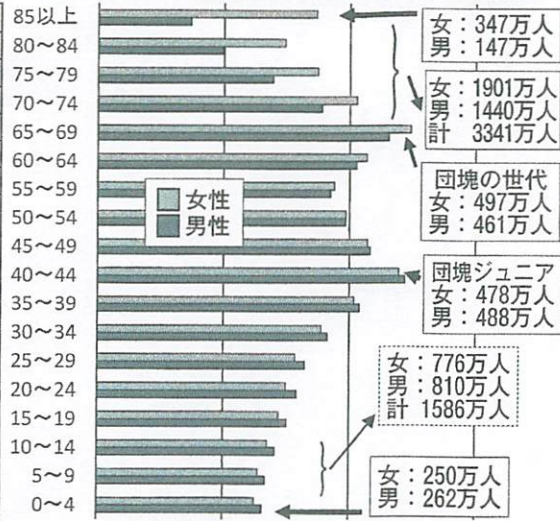


表2 年齢5歳階級男女別未婚率,有配偶率,死別・離別率(%)

	未婚率		有配偶率		死別・離別率	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
15~19	99.3	99.2	0.3	0.4	0.03	0.04
20~24	91.2	88.0	4.7	8.1	0.24	0.77
25~29	67.6	58.4	24.7	35.2	0.99	2.18
30~34	43.9	32.7	48.6	60.1	1.9	4.3
35~39	33.1	22.8	59.9	69.0	2.8	6.1
40~44	28.2	18.8	64.0	70.9	4.2	8.5
45~49	24.3	15.0	66.5	72.6	5.8	10.7
50~54	19.8	11.2	70.3	74.8	7.2	12.6
55~59	15.7	7.7	74.1	77.4	7.8	13.7
60~64	13.0	5.9	76.4	76.1	8.5	16.9
65~69	9.0	5.1	79.4	71.9	9.7	21.8
70~74	4.9	4.2	82.3	64.4	11.0	30.0
75~79	3.0	3.8	82.2	51.6	13.3	42.6
80~84	1.9	3.6	78.7	35.3	18.0	58.6
85以上	1.2	3.5	64.5	13.4	32.2	79.4

図2 年齢5歳階級男女別未婚率(%)

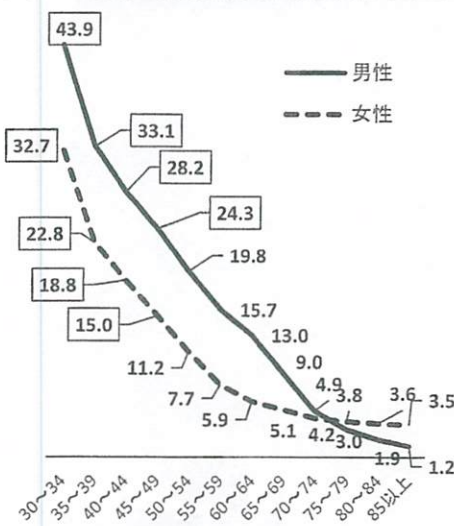


図3 年齢5歳階級男女別有配偶率(%)

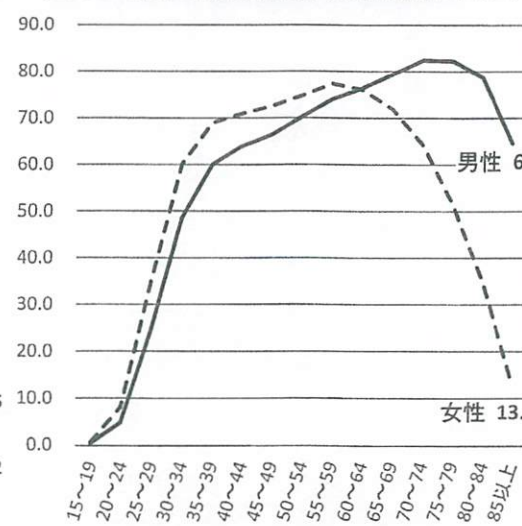


図4 年齢5歳階級男女別死別・離別率(%)

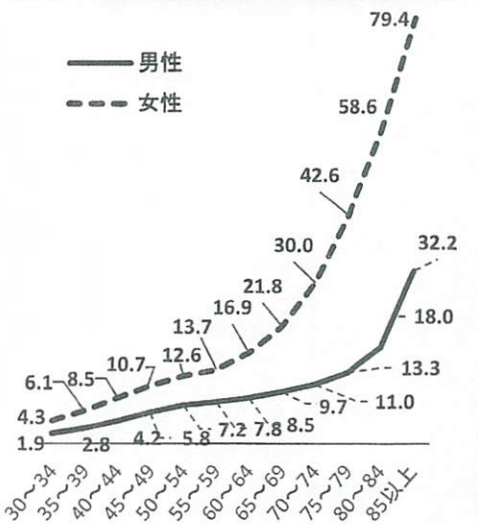


図5 世帯人員別一般世帯の推移(%)

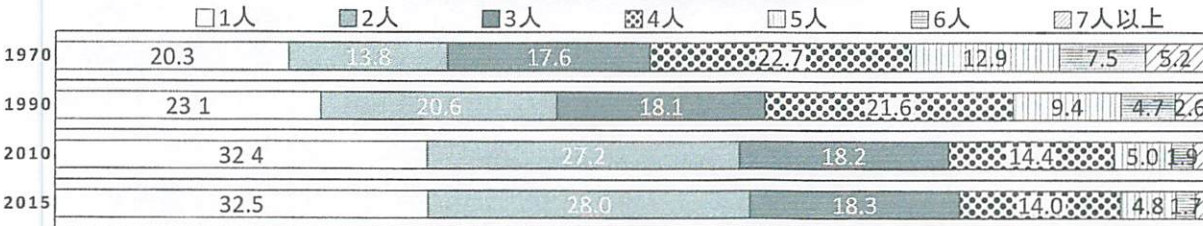


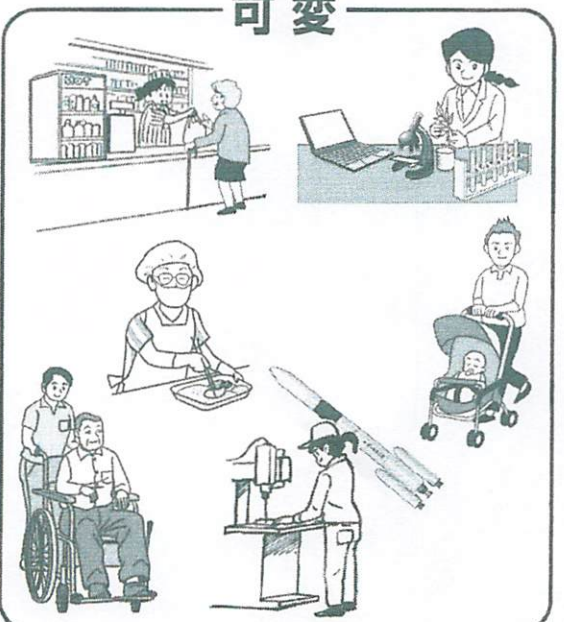
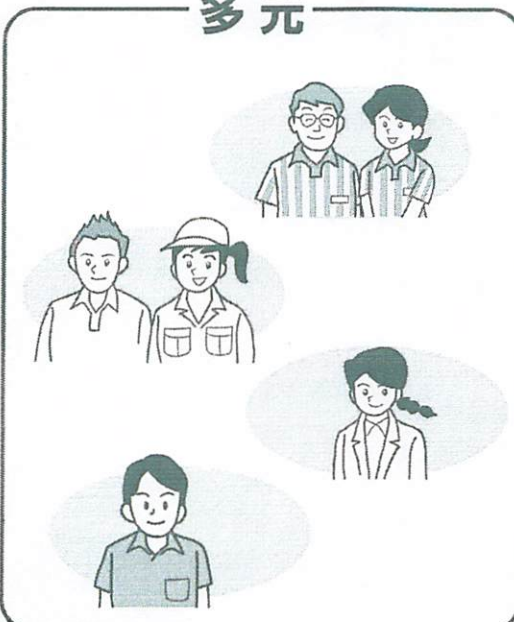
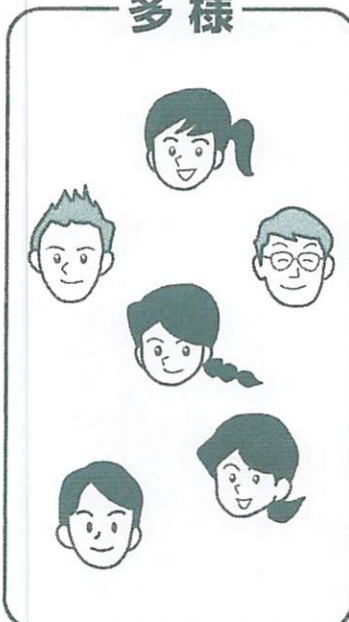
表3 単独世帯推移(%)

	(推計) 単独
2020	34.4
2025	35.6
2030	36.5
2035	37.2

多様

多元

可変





資料1 「社会的な見方・考え方」の示し方

○視点の第二は、「社会的な見方・考え方」に基づいた示し方の改善である。「社会的な見方・考え方」は社会的現象等を見たり考えたりする際の視点や方法であり、時間、空間、相互関係などの視点に着目して事実等に関する知識を習得し、それらを比較、関連付けなどして考察・構想し、特色や意味、理論などの概念等に関する知識を身に付けるために必要となるものである。これらのことを踏まえて、学習指導要領の内容について、例えば「社会的な見方・考え方」と概念等に関する知識との関係などを示していくことが重要である。

文部科学省「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（第2部）」「2. 各教科・科目等の内容の見直し」「(2)社会、地理歴史、公民、②具体的な改善事項、i)教育課程の示し方の改善、イ 指導内容の示し方の改善」より

資料2 2015年国勢調査抽出速報集計結果による日本社会の特性

【人口構造】

- 我が国の人口は1億2711万人（2015年10月1日現在）
- 1920年の調査開始以来、初めての減少（2010年から0.7%減、年平均0.15%減）
- 総人口に占める65歳以上人口の割合は23.0%から26.7%に上昇
- 65歳以上人口の割合は世界で最も高い水準
- 全都道府県で65歳以上人口の割合が15歳未満人口の割合を初めて上回る

【就業者等の状況】

- 労働力率は2010年に引き続き男性で低下、女性で上昇
- 女性の労働力率は、25～29歳で比較可能な1950年以降初めて8割超
- 「医療、福祉」に従事する者の割合は2010年に引き続き上昇

【世帯の状況】

- 世帯人員が1人の世帯が1684万5000世帯と最も多く、一般世帯の3割を超える
- 65歳以上男性の8人に1人、65歳以上女性の5人に1人が一人暮らし

総務省 報道資料「平成27年国勢調査 抽出速報集計結果 要約」より

表1 産業分類別の基準と人間・社会関係の特性

産業分類	産業特性	関係の特性	人間・集団との関係の特性
I次産業 中心社会	自然の恩恵 農林水産業	地縁・血縁	同質・身分・伝統を前提とした公私未分化の非選択的な人間関係
II次産業 中心社会	自然を克服 鉱工業、建設業	社縁・学校縁	同質・平等・競争・利害を前提とした集団への実質的に非選択的な帰属関係
III次産業 中心社会	I次、II次以外 運輸・通信・サービス	情報・知縁	選択の契機を介在させた部分の人間関係 (横並び階層化 or 棲分 or 共生関係)

図1 産業（大分類）別就業15歳以上の割合（全国 2010年）

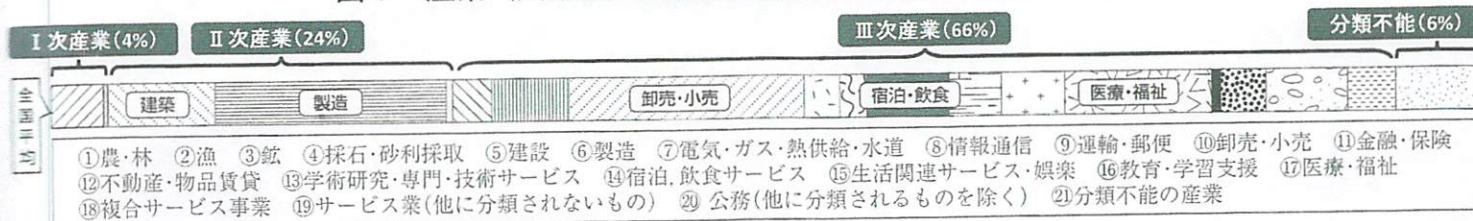


図2 産業（大分類）別就業15歳以上の割合の推移（全国 2000年、2005年、2010年、2015年）

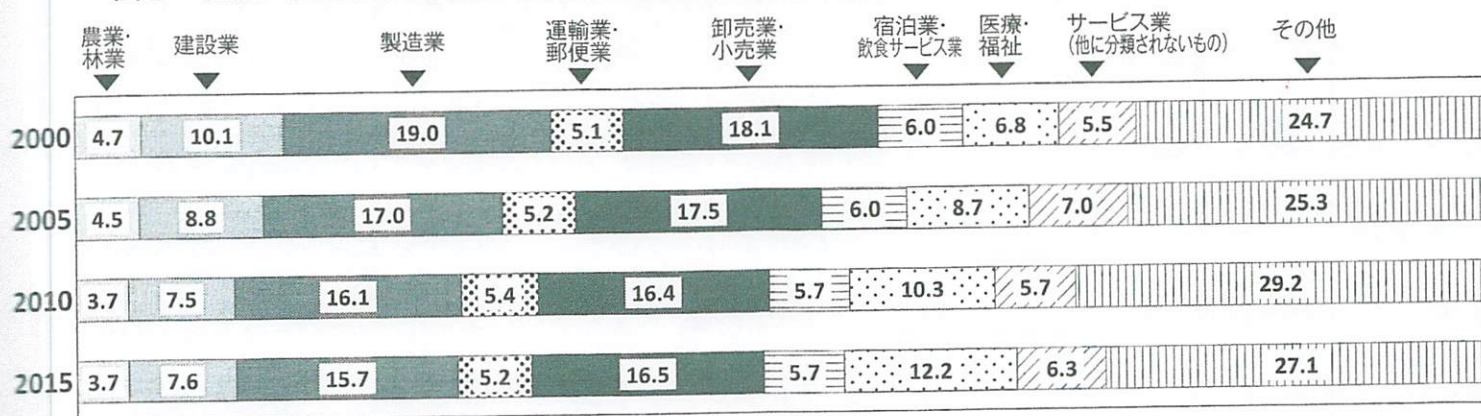


図3 産業（I次、II次、III次）別就業15歳以上の割合の推移（全国 2000年、2005年、2010年、2015年）

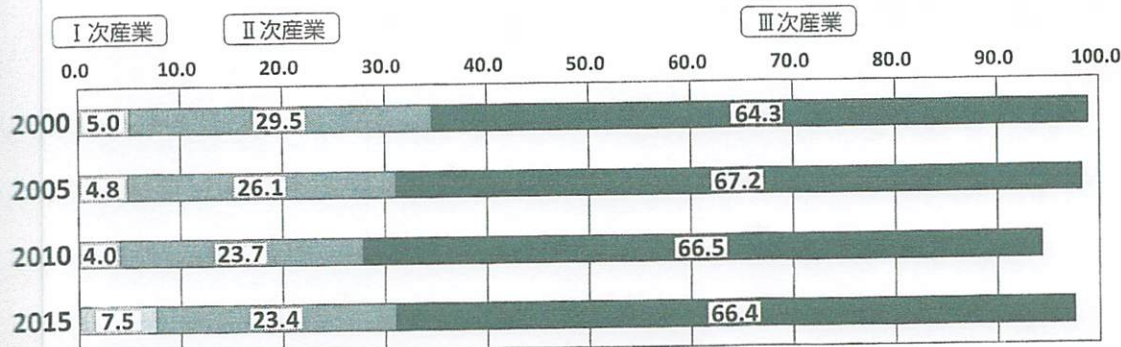


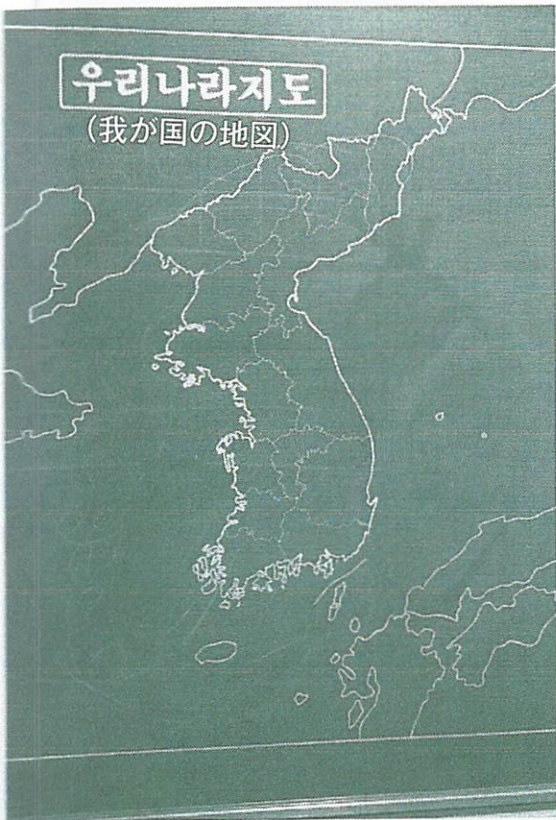
表2 産業別就業15歳以上の分類不能割合の推移

年	I次+II次+III次 (%)	分類不能 (%)
2000	98.8	1.2
2005	98.1	1.9
2010	94.2	5.8
2015	97.3	2.7



資料1 ソウル市内の初等学校の教室の黒板に記された韓国の地図

資料2 社会科、地理歴史科、公民科において育成を目指す資質・能力の整理



写真提供は韓国ソウル市立初等学校の崔松姫先生（2012年～14年に教員留学生として静岡大学の馬居研究室で研究に従事）、日本語訳は馬居付記

「中学校社会 歴史的分野」

知識・技能

- ・各時代の特色を踏まえた我が国の歴史（直接的な関わりや間接的な影響を及ぼす世界の歴史を含む）に関する理解（歴史上の人物との文化遺産、伝統と文化の特色、歴史に見られる国際関係や文化交流のあらまし）
- ・年表などの諸資料から、歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能

思考力・判断力・表現力等

- ・歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力
- ・趣旨が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的に説明したり、それらを基に議論したりする力

学びに向かう力・人間性等

- ・歴史上の諸事象や身近な地域の歴史、他民族の文化や生活に関する社会的事象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度
- ・歴史上の諸事象から見出した課題の解決を視野に社会に関わろうとする態度
- ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情等（歴史上の人物と文化遺産を尊重することの大切さについての自覚、我が国の歴史に対する愛情や国民としての自覚、国際協調の精神）

文部科学省「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（第2部）」「2. 各教科・科目等の内容の見直し」「(2)社会、地理歴史、公民」の「別添3-2」より（下線は馬居）

資料3 韓国歴史教科書執筆基準

2. 6.25전쟁 (육이오구기오戰爭)

6.25戦争が北韓の南侵（※北朝鮮の侵略）で始まったという事実を明確にして、UN軍が参戦して中国軍が介入するなど国際的戦争に広がって戦争が3年の間持続した過程を説明する。

戦争の結果、数多くの人々が亡くなり、傷つき、経済が破綻するなど私たちの国民と国家に途方もない被害が発生したという点を指摘して、平和の大切さを呼び覚ますようにする。

また、休戦協定の推進過程とその内容、6.25戦争の国際的な脈絡も叙述する必要がある。

「2007年改正教育課程（教育人的資源部告示第2007-79号）にともなう歴史教科書執筆基準」の「Ⅷ.大韓民国の樹立と発展」p.17より（馬居・佐本万理訳）

※馬居注記：ユギオとは1950年6（육윅크）月2（이이）5（오오）日に北韓が38度線を越えて攻めてきた、と韓国の人たちが共有する歴史的事実の一般的な呼称

資料4 中学校学習指導要領(平成20年3月)第2節 社会

「歴史的分野」「2 内容」「(6)現代の日本と世界」

ア 冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを通して、第二次世界大戦後の諸改革の特色を考えさせ、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。

「3 内容の取扱い」「(7)内容の(6)については、次のとおり」

ア アについては、国民が苦難を乗り越えて新しい日本の建設に努力したことに気付かせるようにすること。「第二次世界大戦後の諸改革の特色」については、新たな制度が生まれたことなどに着目して考えさせるようにすること。

資料5 中学校学習指導要領解説(平成20年9月)社会編 p.87

この中項目のねらいは、第二次世界大戦後の諸改革の特色を考えさせ、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを、次の各事項の学習を通して理解させることである。「冷戦」については、国際連合の発足、米ソ両陣営の対立、アジア諸国の独立、朝鮮戦争、その後の平和共存の動きなどを、我が国の動きと関連させながら取り扱う。

資料6 1950年6月25日に朝鮮半島で始まった戦争に対する関係国の呼称（馬居作成）

米 国	The Korean War
韓 国	6.25 公式には韓国戦争
北朝鮮	祖国解放戦争（南半分の同胞を解放する正義の戦争。どちらが先に攻めたかは問題にならない）
中 国	抗美援朝戦争（美国に抗して朝鮮を援ける戦争。美国＝USA）



資料1-1 2013年公的年金加入状況20~59歳 男女計・別人数(千人)



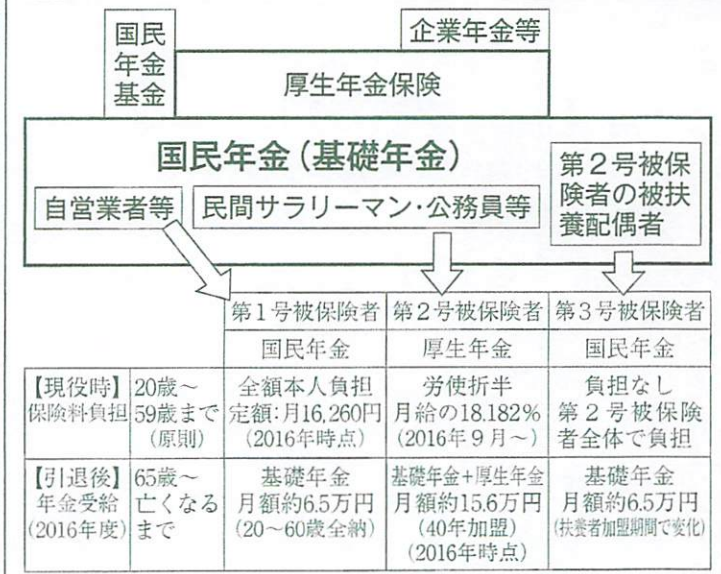
資料1-2 男女計・別割合



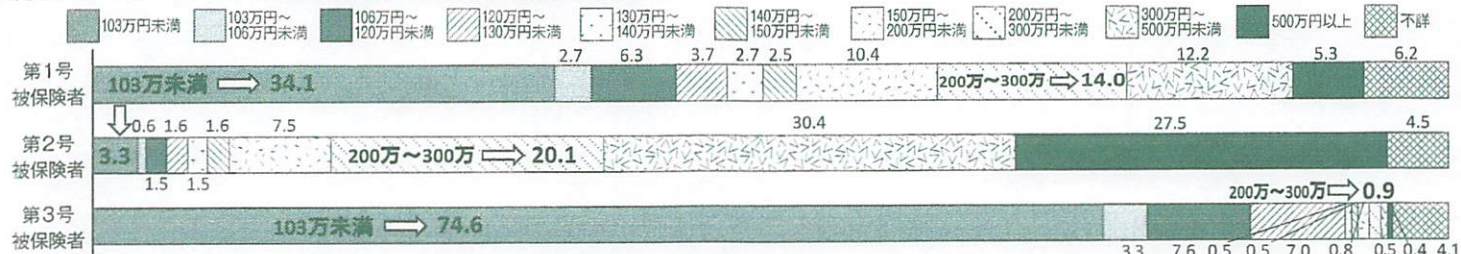
資料2-1 「いっしょに検証! 公的年金:用語集」より

**第1号被保険者:** 自営業者やパートなど、第2号被保険者や第3号被保険者になっていない20歳以上60歳未満の方(保険料全額本人負担)。  
**第2号被保険者:** サラリーマンなど、厚生年金に加入している方(保険料労使折半)。  
**第3号被保険者:** 第2号被保険者に扶養される20歳以上60歳未満の配偶者。国民年金にのみ加入する(保険料免除)。  
**モデル世帯:** 所得代替率の算出にあたりモデルとしている世帯。標準的なモデル世帯として平均的な男子賃金で40年間厚生年金に加入した夫と、40年間専業主婦の夫婦を想定している。  
**国民年金(基礎年金):** 日本に住んでいる20歳以上60歳未満のすべての人が加入する公的年金の制度。一定の要件を満たせば、将来、基礎年金(1階部分)を受け取ることができる。  
**厚生年金:** 会社などに勤務している人が加入する公的年金の制度。一定の要件を満たせば、将来、基礎年金(1階部分)に加えて、厚生年金(2階部分)を受け取ることができる。  
**賦課方式:** 年金の財政方式のひとつで、年金支給のために必要な財源を、その時々々の現役世代の保険料収入から用意する方式。

資料2-2 公的年金制度(2階立て)+企業年金等(3階)の仕組み



資料1-3 第1~3号被保険者別年収額階級の割合



資料1-4 第1~3号被保険者別就業形態の割合



資料3-1 国保被保険者(75歳未満)の年齢構成と国保加入率の年次推移

年	0歳~74歳		0歳~19歳		20歳~39歳		40歳~64歳		65歳~74歳	
	構成比	国保加入率	構成比	国保加入率	構成比	国保加入率	構成比	国保加入率	構成比	国保加入率
2011年	100.0	34.3	12.7	21.7	19.5	24.0	38.2	33.8	29.6	76.2
2012年	100.0	34.0	12.5	21.0	18.8	23.5	37.6	33.0	31.1	76.1
2013年	100.0	33.6	12.2	20.4	18.2	23.0	36.7	31.9	32.8	75.6
2014年	100.0	32.9	11.8	19.5	17.5	22.1	35.6	30.4	35.0	75.1
2015年	100.0	32.1	11.5	18.5	17.0	21.2	34.8	29.0	36.7	74.5

資料4 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」  
「2.」の「(2)社会,地理歴史,公民」の「別添3-4」より(下線は馬居)

小学校 社会的事象の見方・考え方

社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりして

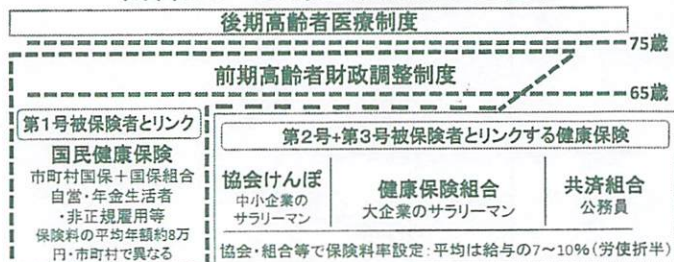
中学校「公民的分野」現代社会の見方・考え方

社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて

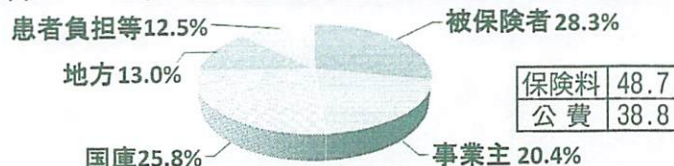
高等学校「公民科」人間と社会の在り方についての見方・考え方

社会的事象等を倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて

資料2-3 公的医療保険の仕組み



資料3-2 日本の国民医療費の負担構造(財源別)(2014年)



資料5 中学校学習指導要領第2節社会[公民的分野]「2 内容」  
「2 私たちと経済」「イ 国民の生活と政府の役割」

国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。また、財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせる。その際、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解させる。

資料1-1~4: 「平成25年公的年金加入状況等調査 結果の概要」厚生労働省年金局、2015年12月

資料2-1~3: 厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/> 「年金・日本年金機構関係」の「教えて! 公的年金制度」と「マンガで読む いっしょに検証! 公的年金」

資料3-1, 2: 「平成26年度 国民医療費の概況」厚生労働省

★上記資料等を参照し、馬居が作成



図1 幼児期に育ってほしい10の姿→小・中・高の教科等の教科内・教科間と学年内・学校内・学校種間の連携構想図

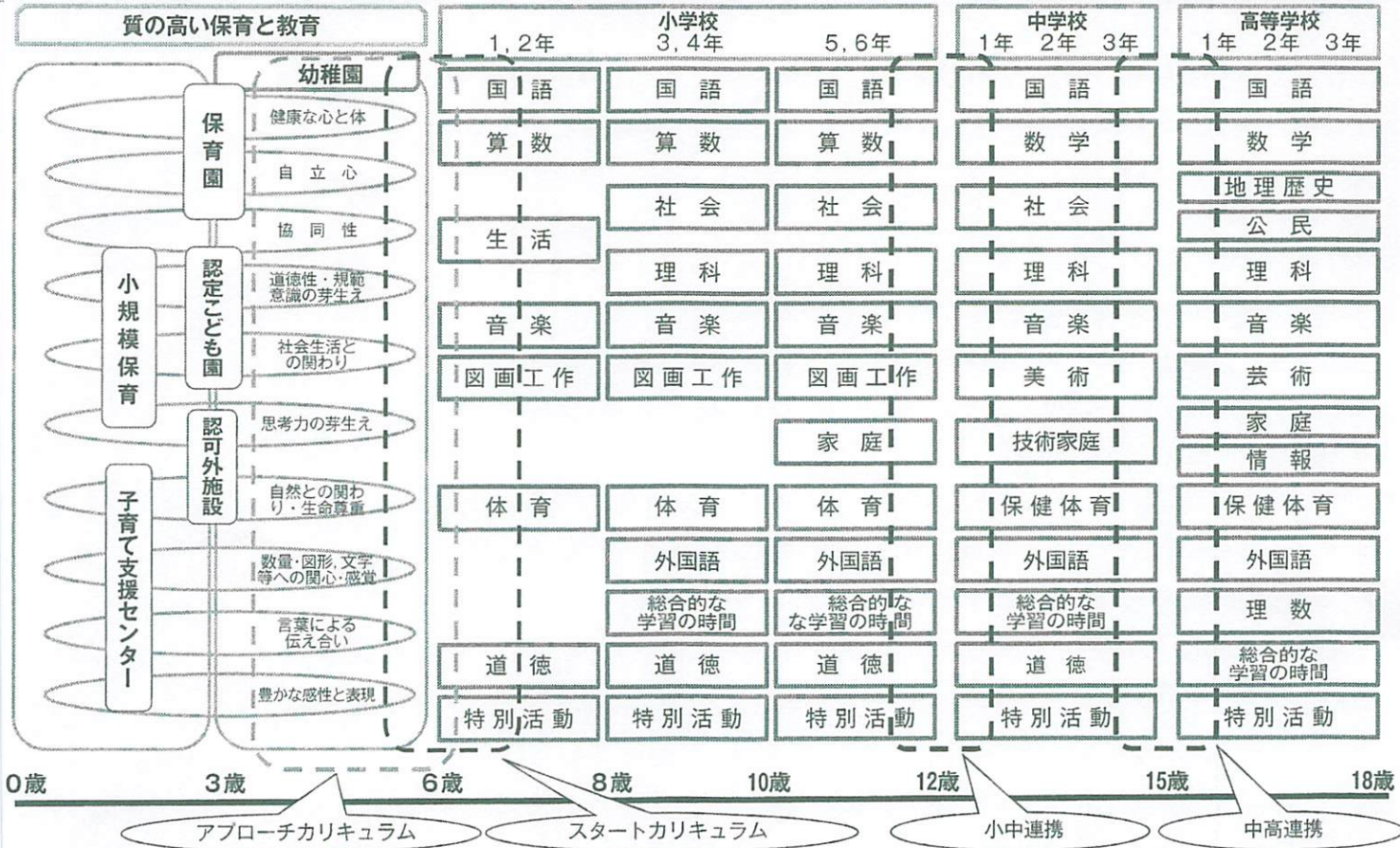
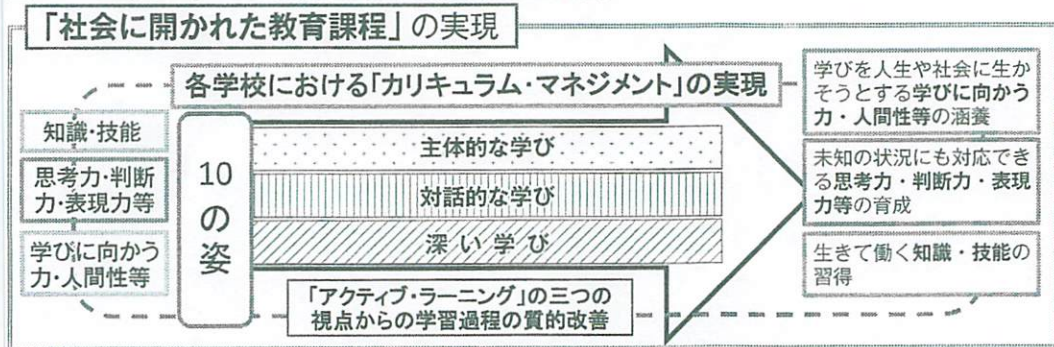


図2 三種の学びと資質・能力育成モデル図

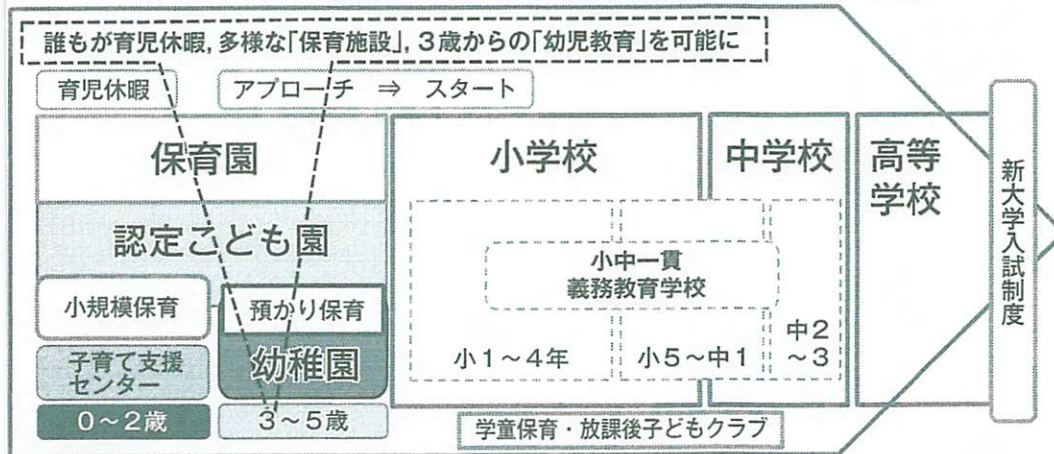


資料2 資質・能力のワンピースモデルの社会的背景

時代の流れは三次産業・サービス業の側に

この職場に共通するのは、「人との交渉」(対話的)が仕事の大半で、相手の要望に応じる「臨機応変の対応」(主体的)が評価の対象になり、相手の心の変化を先取りする「質の高いサービス+商品の創案」(深い学び)を日々求められること。そして興味深いのは、( )内に付記したように、準備中の新学習指導要領の「開かれた教育課程+カリキュラムマネジメント+アクティブ・ラーニング」が志向する子ども個々の資質・能力重視の学びとつながることである。「主体的」で「対話的」とはまさに「ONE PIECE」を貫くコンセプト。深い学びは自立と結ぶ「ONE PIECE」のテーマと重なる。勝者は集団帰属を優先するスポコンではなく、自立志向の「ONE PIECE」側にある。

図3 人口減少時代の幼児教育・学校教育制度私見(子ども子育て支援新制度)



資料1 資質・能力のワンピースモデル(単行本巻十掲載第90話末尾2頁10コマから)

- 「おれは剣術を使えねえんだコノヤロウ!!!」  
⇒ 世界一の剣豪を目指すロロノア・ゾロ
- 「航海術も持ってねえし!!!」  
⇒ 天才航海士ナミ
- 「料理も作れねえし!!!」  
⇒ 伝説のオールブルーを夢見る料理人サンジ
- 「ウソもつけねえ!!!」  
⇒ ウソと芸術と武器開発の才のあるウソップ
- 「おれは 助けてもらわねえと生きていけねえ 自信がある!!!」  
⇒ 海賊王を目指す船長ルフィの自己認識

拙稿「今、人気を誇る『ONE PIECE』の魅力」『児童心理』2016年12月号, 金子書房

志を共にする仲間だが、能力も夢も性格も全て異なる。だからこそ互いがかけがえのない世界に一つのピースとして教え・学び・助け・支え・補いあって、それぞれの夢(生きる目標)に向かう。

\*学習指導要領改訂の論理と方法と制度的改編の詳細は『無藤 隆が徹底解説 学習指導要領改訂のキーワード』(解説: 無藤隆, 制作: 馬居政幸・角替弘規, 明治図書, 2017) 参照